



MetroCluster のインストールを準備

ONTAP MetroCluster

NetApp
February 13, 2026

目次

MetroCluster のインストールを準備	1
ONTAP MetroCluster 構成の違い	1
MetroCluster 構成でのオール SAN アレイシステムのサポート	2
クラスピアリング	2
クラスピアリングの前提条件	2
専用のポートを使用する場合の考慮事項	4
データポートを共有する場合の考慮事項	4
ISL に関する考慮事項	5
ISL の共有に関する考慮事項 (ONTAP 9.2)	5
プラットフォーム固有の ISL に関する考慮事項	6
ファブリック接続 MetroCluster 構成で TDM / WDM 機器を使用する場合の考慮事項	6
IOD を使用する状況	7
OOD を使用する状況	7
暗号化デバイスを使用する	7
Brocade DCX 8510-8 スイッチを使用するための要件	8
ミラーされていないアグリゲートを使用する場合の	9
ミラーされていないアグリゲートを使用する場合の	9
電源のシャットダウンが必要なメンテナンス実施時のミラーされていないアグリゲートに関する考慮事項	9
ミラーされていないアグリゲートと階層状のネームスペースに関する考慮事項	9
ミラーされていないアグリゲート、 CRS メタデータボリューム、 およびデータ SVM	9
ルートボリュームに関する考慮事項	
ミラーされていないアグリゲートと SVM に関する考慮事項	9
ミラーされていないアグリゲートと SAN に関する考慮事項	10
MetroCluster サイトでのファイアウォールの使用状況	10
MetroCluster サイトでのファイアウォールの使用に関する考慮事項	10

MetroCluster のインストールを準備

ONTAP MetroCluster 構成の違い

MetroCluster 構成のタイプごとに、必要なコンポーネントが異なります。

いずれの構成においても、2つの MetroCluster サイトがそれぞれ ONTAP クラスタとして構成されます。2ノード MetroCluster 構成では、各ノードがシングルノードクラスタとして構成されます。

フィーチャー (Feature)	IP 構成	ファブリック接続構成		ストレッチ構成	
		* 4 ノードまたは 8 ノード *	* 2 ノード *	* 2 ノードブリッジ接続 *	* 2 ノード直接接続 *
コントローラ数	4または8 ¹	4台または8台	2つ	2つ	2つ
FC スイッチストレージファブリックを使用します	いいえ	はい。	はい。	いいえ	いいえ
IP スイッチストレージファブリックを使用します	はい。	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
FC-to-SAS ブリッジを使用します	いいえ	はい。	はい。	はい。	いいえ
直接接続型 SAS ストレージを使用します	○ (ローカル接続のみ)	いいえ	いいえ	いいえ	はい。
ADP をサポートします	○ (ONTAP 9.4以降)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ローカル HA をサポートします	はい。	はい。	いいえ	いいえ	いいえ
ONTAP 自動計画外スイッチオーバー (AUSO) のサポート	いいえ	はい。	はい。	はい。	はい。

ミラーされていないアグリゲートを	○ (ONTAP 9.8 以降)	はい。	はい。	はい。	はい。
ONTAP メディエーターをサポートします	○ (ONTAP 9.7 以降)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
MetroCluster Tiebreaker をサポートします	○ (ONTAP メディエーターとの併用は不可)	はい。	はい。	はい。	はい。
をサポートします すべての SAN アレイ	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。

• メモ *

1. 8ノードMetroCluster IP構成について、次の考慮事項を確認してください。

- ONTAP 9.9.1 以降では、8 ノード構成がサポートされます。
- ネットアップ検証済みの MetroCluster スイッチ（ネットアップから購入したもの）のみがサポートされます。
- IP ルーティング（レイヤ 3）バックエンド接続を使用する設定はサポートされていません。

MetroCluster 構成でのオール SAN アレイシステムのサポート

All SAN Array（ASA）の一部は、MetroCluster 構成でサポートされています。MetroCluster のドキュメントで、AFF モデルの情報環境対応する ASA システムを確認します。たとえば、すべてのケーブル配線と AFF A400 システムのその他の情報は、ASA AFF A400 システムも環境に接続します。

サポートされるプラットフォーム構成は、に記載されています ["NetApp Hardware Universe の略"](#)。

クラスタピアリング

各 MetroCluster サイトは、パートナーサイトのピアとして設定されます。ピア関係を設定するための前提条件とガイドラインを理解しておく必要があります。これは、それらの関係に共有ポートと専用ポートのどちらを使用するかを決定する際に重要になります。

関連情報

["クラスタと SVM のピアリングの簡単な設定"](#)

クラスタピアリングの前提条件

クラスタピアリングを設定する前に、ポート、IP アドレス、サブネット、ファイアウォール、およびクラスタの命名要件の間の接続が満たされていることを確認する必要があります。

接続要件

ローカルクラスタのすべてのクラスタ間 LIF が、リモートクラスタのすべてのクラスタ間 LIF と通信できる必要があります。

必須ではありませんが、一般に、クラスタ間 LIF には同じサブネットの IP アドレスを使用した方が構成がシンプルになります。IP アドレスは、データ LIF と同じサブネット内や、別のサブネット内に存在できます。各クラスタで使用するサブネットは、次の要件を満たしている必要があります。

- サブネットには、各ノードに 1 つのインタークラスタ LIF が割り当てられる十分な数の IP アドレスが必要です。

たとえば、4 ノードクラスタの場合、クラスタ間通信で使用するサブネットには、使用可能な IP アドレスが 4 つ必要です。

クラスタ間ネットワークでは、各ノードにインタークラスタ LIF と IP アドレスが必要です。

クラスタ間 LIF のアドレスには IPv4 または IPv6 のいずれかを使用できます。



ONTAP 9 では、必要に応じて IPv4 プロトコルと IPv6 プロトコルがクラスタ間 LIF に共存することを許可し、IPv4 から IPv6 にピアリングネットワークを移行できます。以前のリリースでは、クラスタ全体のすべてのクラスタ間関係が IPv4 または IPv6 のどちらかだったため、プロトコルの変更はシステム停止を伴うイベントでした。

ポート要件

クラスタ間通信には専用のポートを使用することも、データネットワークで使用されているポートを共有することもできます。ポートは、次の要件を満たしている必要があります。

- あるリモートクラスタとの通信に使用するポートは、すべて同じ IPspace に属している必要があります。

複数のクラスタとのピア関係の作成には複数の IPspace を使用できます。ペアワイズのフルメッシュ接続は IPspace 内でのみ必要になります。

- クラスタ間通信で使用されるブロードキャストドメインに、1 ノードあたり最低 2 つのポートがあり、クラスタ間通信で別のポートへのフェイルオーバーが可能になっている。

ブロードキャストドメインに追加できるポートは、物理ネットワークポート、VLAN、インターフェイスグループ（ifgrps）です。

- すべてのポートが接続されている。
- すべてのポートが正常な状態である必要があります。
- ポートの MTU 設定が一貫している。

ファイアウォールの要件

ファイアウォールとクラスタ間ファイアウォールポリシーでは、次のプロトコルを許可する必要があります。

- ICMP サービス
- ポート 10000、11104、および 11105 経由でのすべてのインタークラスタ LIF の IP アドレスへの TCP

接続

- クラスタ間 LIF 間の双方向 HTTPS

デフォルトのクラスタ間ファイアウォールポリシーは、HTTPS プロトコル経由のアクセス、およびすべての IP アドレス（0.0.0.0/0）からのアクセスを許可します。ポリシーは必要に応じて変更または置き換えできません。

専用のポートを使用する場合の考慮事項

専用のポートを使用することが適切なクラスタ間ネットワーク解決策であるかどうかを判断するには、LAN のタイプ、利用可能な WAN 帯域幅、レプリケーション間隔、変更率、ポート数などの設定や要件を考慮する必要があります。

専用のポートを使用することがクラスタ間ネットワーク解決策として適切であるかどうかを判断するには、ネットワークについて次の事項を考慮してください。

- 使用できる WAN 帯域幅が LAN ポートの帯域幅とほぼ同じで、レプリケーション間隔の設定により、通常のクライアントアクティビティが実行されている間にレプリケーションが実行される場合は、クラスタ間レプリケーションにイーサネットポートを専用割り当てて、レプリケーションとデータプロトコルとの競合を回避します。
- データプロトコル（CIFS、NFS、iSCSI）によるネットワーク利用率が 50% を超える場合は、レプリケーションにポートを専用割り当てて、ノードのフェイルオーバーが発生してもパフォーマンスが低下しないようにします。
- 10GbE 以上の物理ポートがデータとレプリケーションの両方に使用されている場合は、レプリケーション用に VLAN ポートを作成し、論理ポートをクラスタ間レプリケーション専用にすることができます。

ポートの帯域幅は、すべての VLAN とベースポートで共有されます。

- データの変更率とレプリケーション間隔について検討し、間隔ごとにレプリケートする必要があるデータの量に十分な帯域幅が必要かどうかを検討します。データポートを共有すると、原因がデータプロトコルと競合する可能性があります。

データポートを共有する場合の考慮事項

クラスタ間レプリケーションのためにデータポートを共有することが、正しいクラスタ間ネットワーク解決策であるかどうかを判断するには、LAN のタイプ、利用可能な WAN 帯域幅、レプリケーション間隔、変更率、ポート数などの設定や要件を考慮する必要があります。

データポートを共有することがクラスタ間接続解決策として適切であるかどうかを判断するには、ネットワークについて次の事項を考慮してください。

- 40 ギガビットイーサネット（40GbE）ネットワークのように高速なネットワークの場合は、データアクセスに使用されるのと同じ 40GbE ポート上に、レプリケーションを実行するためのローカル LAN 帯域幅が十分にあると考えられます。

多くの場合、使用できる WAN 帯域幅は、10GbE の LAN 帯域幅よりもはるかに少なくなります。

- クラスタ内のすべてのノードが、データをレプリケートし、使用できる WAN 帯域幅を共有しなければならない場合、データポートを共有する方法は、比較的許容できる選択肢となります。
- データ用とレプリケーション用のポートを共有すると、ポートをレプリケーション専用にする場合の追加のポート数が不要になります。

- レプリケーションネットワークの最大伝送ユニット（MTU）サイズは、データネットワークで使用されるサイズと同じになります。
- データの変更率とレプリケーション間隔について検討し、間隔ごとにレプリケートする必要があるデータの量に十分な帯域幅が必要かどうかを検討します。データポートを共有すると、原因がデータプロトコルと競合する可能性があります。
- データポートをクラスタ間レプリケーション用に共有すると、同じノード上にある他の任意のクラスタ間対応ポートにクラスタ間 LIF を移行して、レプリケーションに使用する特定のデータポートを制御できます。

ISL に関する考慮事項

MetroCluster 構成では、各 FC スイッチファブリックに必要な ISL の数を確認する必要があります。ONTAP 9.2 以降では、MetroCluster 構成ごとに専用の FC スイッチと ISL を使用する代わりに、同じ 4 つのスイッチを共有できる場合があります。

ISL の共有に関する考慮事項（ONTAP 9.2）

ONTAP 9.2 以降では、次の場合に ISL を共有できます。

- 2 ノード MetroCluster 構成 × 1 と 4 ノード 構成 × 1
- 4 ノード MetroCluster 構成 × 2
- 2 ノード MetroCluster 構成 × 2
- 2 つの DR グループを 1 つの 8 ノード MetroCluster 構成に含めます

共有スイッチ間に必要な ISL の数は、共有スイッチに接続されているプラットフォームモデルの帯域幅によって異なります。

構成に必要な ISL の数を決定する際は、次の点を考慮してください。

- バックエンド MetroCluster 接続を提供する FC スイッチに MetroCluster 以外のデバイスを接続しないでください。
- ISL の共有は、Cisco 9250i スイッチと Cisco 9148 スイッチを除くすべてのスイッチでサポートされません。
- すべてのノードで ONTAP 9.2 以降が実行されている必要があります。
- ISL を共有する場合の FC スイッチのケーブル接続は、8 ノード MetroCluster の場合と同じです。
- ISL を共有する場合に使用する RCF ファイルは、8 ノードの MetroCluster ケーブル接続の場合と同じです。
- すべてのハードウェアとソフトウェアのバージョンがサポートされていることを確認する必要があります。

"NetApp Hardware Universe の略"

- ISL の速度と数は、両方の MetroCluster システムのクライアント負荷に対応できるようにサイジングする必要があります。
- バックエンドの ISL とコンポーネントは、MetroCluster 構成専用にする必要があります。

- サポートされる ISL の速度は、4Gbps、8Gbps、16Gbps、32Gbps です。
- ISL の速度と長さは、1つのファブリックのすべての ISL で同じである必要があります。
- ISL のトポロジは、1つのファブリックのすべての ISL で同じである必要があります。たとえば、すべての ISL を直接リンクにするか、または WDM を使用する場合はすべての ISL で WDM を使用する必要があります。

プラットフォーム固有の ISL に関する考慮事項

推奨される ISL の数は、プラットフォームモデルによって異なります。次の表に、ファブリックごとの ISL 要件をプラットフォームモデル別に示します。各 ISL の容量が 16Gbps であると想定しています。

プラットフォームモデル	4 ノードの DR グループ（スイッチファブリック）あたりの推奨される ISL 数
AFF A900およびFAS9500	8
AFF A700	6
FAS9000	6
8080 です	4.
その他すべて	2 つ

8 ノード構成をサポートするスイッチファブリックの場合（単一の 8 ノード MetroCluster 構成の一部である場合、または 2 つの 4 ノード構成で ISL を共有する場合）ファブリックあたりの推奨される ISL 数は、4 ノードの各 DR グループに必要な数の合計になります。例：

- DR グループ 1 に AFF A700 システムが 4 つ含まれている場合は、ISL が 6 つ必要です。
- DR グループ 2 に FAS8200 システムが 4 つ含まれている場合は、ISL が 2 つ必要です。
- スイッチファブリックあたりの推奨される ISL 数は合計 8 個です。

ファブリック接続 MetroCluster 構成で TDM / WDM 機器を使用する場合の考慮事項

Hardware Universe ツールには、ファブリック接続 MetroCluster 構成で Time Division Multiplexing（TDM；時分割多重化）または Wavelength Division Multiplexing（WDM；波長分割多重化）機器を使用する場合の要件について、いくつかの注意事項が記載されています。これにはさまざまな構成に関する情報も含まれており、フレームの配信にインオーダー配信（IOD）アウトオブオーダー配信（OOD）のどちらを使用するかを判断するのに役立ちます。

このような要件の例としては、ルーティングポリシーを使用するリンクアグリゲーション（トランキング）機能を TDM / WDM 機器でサポートする必要があります。フレームの配信順序（IOD または OOD）は有効になっているルーティングポリシーによって決まり、スイッチ内で維持されます。

次の表に、Brocade スイッチと Cisco スイッチを含む構成のルーティングポリシーを示します。

スイッチ	MetroCluster 構成を IOD に設定する	OOD の MetroCluster 設定を行います
Brocade	<ul style="list-style-type: none"> • AptPolicy を 1 に設定する必要があります • DLS を off に設定します • IOD を on に設定する必要があります 	<ul style="list-style-type: none"> • AptPolicy を 3 に設定する必要があります • DLS は ON に設定する必要があります • IOD を off に設定する必要があります
シスコ	<p>FCVI 用 VSAN のポリシー：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ロードバランシングポリシー：srcid、dstid • IOD を on に設定する必要があります <p>ストレージ用 VSAN のポリシー：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ロードバランシングポリシー：srcid、dstid、oxid • VSAN で in-order-guarantee オプションを設定しないでください 	該当なし

IOD を使用する状況

IOD がリンクでサポートされている場合は、IOD を使用することを推奨します。IOD をサポートする構成は次のとおりです。

- 単一の ISL
- 単一の ISL と単一のリンク（および TDM / WDM などのリンク機器）
- 単一のトランク、および複数の ISL とリンク（および TDM / WDM などのリンク機器）

OOD を使用する状況

- IOD をサポートしないすべての構成
- トランキング機能をサポートしないすべての構成

暗号化デバイスを使用する

MetroCluster 構成で ISL で専用の暗号化デバイスを使用する場合、または WDM デバイスで暗号化を使用する場合は、次の要件を満たす必要があります。

- 該当する FC スイッチのベンダーの認定を受けた外部暗号化デバイスまたは WDM 機器を使用する必要があります。

動作モード（トランキングや暗号化など）に対応した認定が必要です。

- 暗号化によるレイテンシが 10 マイクロ秒以下である必要があります。

Brocade DCX 8510-8 スイッチを使用するための要件

MetroCluster の設置を準備するにあたっては、MetroCluster のハードウェアアーキテクチャおよび必要なコンポーネントについて理解しておく必要があります。

- MetroCluster 構成で使用する DCX 8510-8 スイッチは、ネットアップから購入する必要があります。
- 拡張性を確保するために、4x48 ポートモジュールのうち 2 つの MetroCluster しかケーブル接続しない場合は、MetroCluster 構成間にポートチャンクを 1 つ残しておくことを推奨します。これにより、ケーブルを再接続することなく MetroCluster 構成でポートの使用を拡張できます。
- MetroCluster 構成内の各 Brocade DCX 8510-8 スイッチは、ISL ポートとストレージ接続が正しく設定されている必要があります。ポートの使用方法については、次のセクションを参照してください。"[FC スイッチのポート割り当て](#)"。
- ISL は共有できず、MetroCluster ごとにファブリックごとに 2 つの ISL が必要です。
- バックエンド MetroCluster 接続に使用する DCX 8510-8 スイッチは、他の接続には使用しないでください。

MetroCluster 以外のデバイスはこれらのスイッチには接続せず、MetroCluster 以外のトラフィックが DCX 8510-8 スイッチを経由しないようにしてください。

- 1 枚のラインカードを、ONTAP MetroClusters * または ONTAP 7-Mode MetroCluster のいずれかに接続できます。



このスイッチには RCF ファイルはありません。

Brocade DCX 8510-8 スイッチを 2 つ使用する場合は次のとおりです。

- 各サイトに DCX 8510-8 スイッチが 1 つ必要です。
- 16Gb SFP を搭載した 48 ポートブレードをスイッチごとに少なくとも 2 つ使用する必要があります。

MetroCluster 構成の各サイトで DCX 8510-8 スイッチを 4 つ使用する場合は次のとおりです。

- 各サイトに DCX 8510-8 スイッチが 2 つ必要です。
- 48 ポートブレードを DCX 8510-8 スイッチごとに少なくとも 1 つ使用する必要があります。
- 各ブレードは、仮想ファブリックを使用して仮想スイッチとして設定されます。

次のネットアップ製品は、Brocade DCX 8510-8 スイッチではサポートされません。

- Config Advisor
- Fabric Health Monitor の略

- MyAutoSupport（システムリスクが誤検出される可能性がある）
- Active IQ Unified Manager（旧 OnCommand Unified Manager）



この設定に必要なすべてのコンポーネントがあることを確認します "[NetApp Interoperability Matrix Tool](#) で確認できます”。サポートされている構成については、Interoperability Matrix Tool の注意事項のセクションを参照してください。

ミラーされていないアグリゲートを使用する場合の

ミラーされていないアグリゲートを使用する場合の

ミラーされていないアグリゲートが構成に含まれている場合、スイッチオーバー処理に関連するアクセスの問題に注意する必要があります。

電源のシャットダウンが必要なメンテナンス実施時のミラーされていないアグリゲートに関する考慮事項

サイト全体の電源のシャットダウンが必要なメンテナンスのためにネゴシエートスイッチオーバーを実行する場合は、最初にディザスタサイトが所有するミラーされていないアグリゲートを手動でオフラインにする必要があります。

ミラーされていないアグリゲートをオフラインにしないと、複数のディスクがパニック状態になって、サバイバーサイトのノードが停止する可能性があります。これは、ディザスタサイトのストレージへの接続が失われたために、スイッチオーバーされたミラーされていないアグリゲートがオフラインになるか、または見つからない場合に発生します。これは、電源のシャットダウンまたは ISL の停止が原因です。

ミラーされていないアグリゲートと階層状のネームスペースに関する考慮事項

階層状のネームスペースを使用している場合は、パス内のすべてのボリュームがミラーされたアグリゲートのみ、またはミラーされていないアグリゲートのみ配置されるようにジャンクションパスを設定する必要があります。ジャンクションパスにミラーされていないアグリゲートとミラーされたアグリゲートが混在していると、スイッチオーバー処理後にミラーされていないアグリゲートにアクセスできなくなる可能性があります。

ミラーされていないアグリゲート、CRS メタデータボリューム、およびデータ SVM ルートボリュームに関する考慮事項

設定レプリケーションサービス（CRS）メタデータボリュームとデータ SVM ルートボリュームは、ミラーされたアグリゲートに配置する必要があります。これらのボリュームをミラーされていないアグリゲートに移動することはできません。ミラーされていないアグリゲートに配置されている場合、ネゴシエートスイッチオーバー処理とスイッチバック処理が拒否されます。MetroCluster チェックコマンドを使用すると、この場合に警告が表示されます。

ミラーされていないアグリゲートと SVM に関する考慮事項

SVM は、ミラーされたアグリゲートでのみ、またはミラーされていないアグリゲートでのみ設定してください。ミラーされていないアグリゲートとミラーされたアグリゲートが混在しているとスイッチオーバー処理に 2 分以上かかり、ミラーされていないアグリゲートがオンラインにならない場合にデータを利用できなくなる場合があります。

ミラーされていないアグリゲートと SAN に関する考慮事項

9.4.1 より前のバージョンの ONTAP では、LUN をミラーされていないアグリゲートに配置しないでください。ミラーされていないアグリゲートに LUN を設定すると、スイッチオーバー処理が 120 秒を超え、データを利用できなくなる可能性があります。

MetroCluster サイトでのファイアウォールの使用状況

MetroCluster サイトでのファイアウォールの使用に関する考慮事項

MetroCluster サイトでファイアウォールを使用している場合は、必要なポートへのアクセスを確保する必要があります。

次の表は、2 つの MetroCluster サイト間に配置された外部ファイアウォールでの TCP/UDP ポートの使用状況を示しています。

トラフィックタイプ	ポート / サービス
クラスタピアリング	11104/TCP 11105/TCP
ONTAP システムマネージャ	443 / TCP
MetroCluster IP のクラスタ間 LIF	65200/TCP 10006/TCP および UDP
ハードウェアアシスト	4444/TCP

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。